

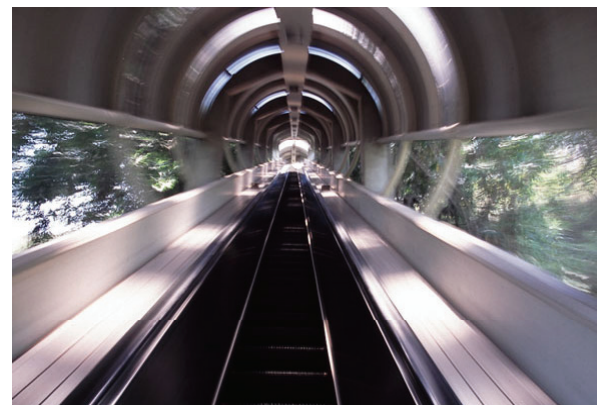
# 機関リポジトリ構築を経験して(2)

大阪教育大学附属図書館  
情報システム係  
谷口慶子

名古屋大学会場:平成21年8月6日(木)  
NII会場:平成21年9月10日(木)

# 大学の紹介

- 教育学部のための単科大学
- 二つのキャンパス（夜間部あり）
- 教員数 約300名
- 図書館は本館・分館 職員数 27名



# はじまり（1年目）

- 平成18年4月 **ワーキング発足**  
（メンバー：課長・課長代理、6係から1名ずつ）
- NIIポータル研修の受講
- 先行大学の見学・実習
- 図書館運営委員会での説明・チラシ配布
- 『情報処理センター一年報』における紹介
- **DSpaceサーバ導入**（翌年2月）

## 手探りの日々（2年目）

- 平成19年4月 情報システム係 2名 専任
- 正式公開とコンテンツ登録が目標

まずは

コンテンツをどう収集するか？

# 何を収集するか

- 大学紀要（図書館が編集発行）

著作権は図書館にあり

- 教員のコンテンツ

→教員DBで10,000件のコンテンツを確認

# 教員のコンテンツ収集

- 研究者DB+Scopus+MAGAZINEPLUSからリスト作成
- 出版社ポリシーを調査

【注意事項】  
 ○・△・× の意味についての説明です。  
 ○・・・リポジトリ登録可 △・・・図書館で出版社・学協会に確認の必要あり ×・・・現時点では、出版社・学協会がリポジトリ登録を許可していない  
 ◎記事 論文はリスト内掲載はありません。

◎備考欄にある。

著者名	論文名	掲載誌名	YEAR	VOL・ND	ページ	登録結果	備考
Mnamizono K., Matsuta K., Mnamizono T., Yamazuchi T., Sumikama T., Nasatomo T., Oeura M., Iwakoshi T., Mhara M., Fukuda M., Koshigiri K., Morita M.	Spin manipulation by use of nuclear quadrupole interactions - Quarks and medium effects in the nucleus	Zeitschrift für Naturforschung - Section A: Journal of Physical Sciences	2002	57	557-560		△
Mnamizono K., Yamazuchi T., Matsuta K., Mnamizono T., Ikeda T., Muramoto Y., Fukuda M., Nohri Y., Kitagawa A., Koshigiri K., Morita M.	Spin control and structure of weak nucleon currents in A=8, 12, 20 and 41	Hyperfine Interactions	1999	120-121	707		○(登録前後)
	Polarizations of $^{12}\text{B}$ in Muon Capture Reaction with Higher Order Configuration Mixing	Progress of Theoretical Physics	1987	78(2)	343		△
	Nuclear Structure Effects on Weak Nuclear Form Factors of $0^+ \rightarrow 0^+$ Transitions in A=16 System	Progress of Theoretical Physics	1979	62	706-712		△
	Nuclear Polarization of $^{12}\text{B}$ in Muon Capture Reaction	Progress of Theoretical Physics	1983	70	827-839		△
Mnamizono T., Matsuta K., Yamazuchi T., Mnamizono K., Ikeda T., Muramoto Y., Fukuda M., Nohri Y., Kitagawa A., Koshigiri K., Morita M.	New limit of the G-parity irregular weak nucleon current disclosed in $^{12}\text{B}$ many angular distributions from spin aligned $^{12}\text{B}$ and $^{12}\text{N}$	Physical Review Letters	1998	80	4132		○(登録前後)
Mnamizono K., Matsuta K., Mnamizono T., Yamazuchi T., Sumikama T., Nasatomo T., Oeura M., Iwakoshi T., Fukuda M., Mhara M., Koshigiri K., Morita M.	New limit of the G-parity irregular weak nucleon current detected in $^{12}\text{B}$ decays of spin aligned $^{12}\text{B}$ and $^{12}\text{N}$	Physical Review C - Nuclear Physics	2002	65(1)	15501-155017		○
Mnamizono K., Yamazuchi T., Matsuta K., Mnamizono T., Ikeda T., Muramoto Y., Fukuda M., Nohri Y., Kitagawa A., Koshigiri K., Morita M.	New limit of the G-parity irregular weak nucleon current and of the axial current detected in $^{12}\text{B}$ and $^{12}\text{N}$						○

出版社ポリシー  
 ○: 登録可能  
 △: 不明  
 ×: 登録不可と記載

敷居を低くして限りなく登録に近いコンテンツの許諾を得る

# 図書館運営委員の教員へ コンテンツ登録依頼

- 図書館運営委員会を前にリストを配布  
ところが…

研究者DBには選んだ論文  
を掲載している。  
なぜ、それ以外のものをわ  
ざわざリスト化するのか？

再認識

論文公開への教員の考え方

# 何をどうやって登録するの？

- メタデータ入力方法の確認

(サーバ導入業者がサンプル登録したデータを元に)

何を入力すればいいの？

アブストラクトの入力は大変！

入力メタデータの確定

画質はどのくらいがいいの？

OCRってなんでしょう？



# 広報活動

- 数名の協力的と思われる教員向け説明会
- 講座説明会 半年で全教員の1/3が参加
- ポスター・ちらし
- 学内グループウェア
- メールマガジン(情報処理センター)



# 軌道にのりつつ . . .

- 大学紀要のコンスタントな入力
- 自主的なコンテンツ登録依頼

一部ではあるが、  
確実に

## 次のステップへ(3年目)

- 登録数の増加
- 登録種類数の増加  
(古地図・掛図、報告書、学内刊行物)
- 窓口画面の改修
- 研究者総覧との連携
- 運用指針の制定



# 未知との遭遇

## その1 そんなことまでするの？

- 複雑な権利関係
- 出版元、原本所有者に公開許諾の依頼
- 公開のための条件確認



歴史科教授用参考掛図  
應仁亂合戦の図  
(その壹, その貳)

原画は京都真正極楽寺  
が所蔵

# 未知との遭遇

## その2 古地図公開

- 歴史的・社会的背景のための公開可否の議論



# 未知との遭遇

## その3 窓口画面の改修

- 検討3ヶ月、開発3ヶ月、  
    なのに、、、
  - ・レスポンスが遅くなる
  - ・想定していたものとの違い



引き続き検討・改修予定

# 未知との遭遇

## その4 アクセス不能？！

- 他機関からアクセスできないという問い合わせ

変更前 <http://ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp:8080/dspace/>



変更後 <http://ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/dspace/>

URL変更後の事務連絡や  
データ付け替えが面倒

# 未知との遭遇

## その5 突然バックアップがとれなくなった

- サーバ機を購入して1年3ヶ月
- サーバ機(ハード)はF社、システム(ソフト)はC社から購入
- OSはフリー
- 保守契約一切なし



F社と保守契約

現在も原因はわからず



# 未知との遭遇

## その6 ログがなくなった！

- 2008年7月までの統計(1年分)が消失

原因

Dspaceの初期設定によるログのローテーション

1ファイル上限1MB で 500ファイル

特定のIPアドレスからの集中的なアクセス

# 大学内外との連携を意識しつつ

- 公開のための複雑な権利関係の認識
- 学内の担当事務と連携し、発生源でのコンテンツ収集・許諾の必要性

# さらなる展開へ（4年目）

- 学内刊行物の登録  
（2年間で図書館所蔵分登録完了予定）
- 事務局との連携
- 授業との連携（学内プロジェクトとの連携）
- リポジトリ登録のためのマニュアル作成
- 構築方針の文書化

# 授業との連携

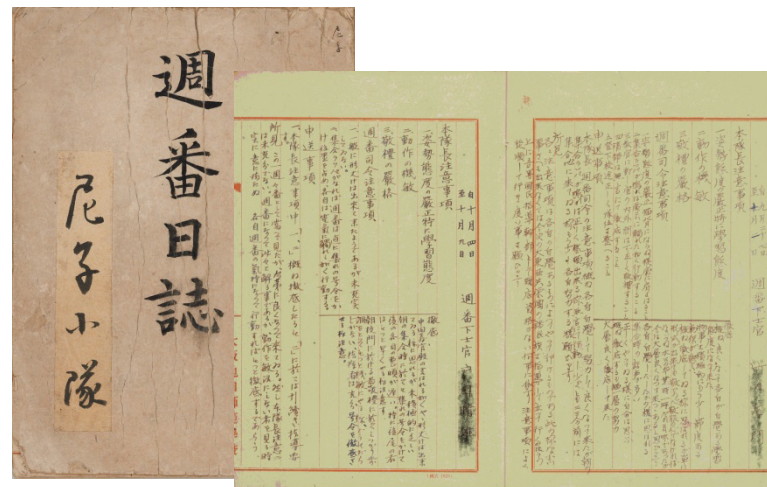
## ● デジタル教材プロジェクト

『大学内で開発されたデジタル教材を広く公開する』

→ 図書館も連携し、デジタル教材をリポジトリで公開する

### 教官より提案

授業で大学年史資料を用い  
その成果を電子化した資料  
と共に公開



# リポジトリ登録のためのマニュアル作成

- 登録がスムーズになるために
- 教員が研究するときに注意することを明記

肖像写真を  
用いるとき

他人の著作物を  
用いるとき

業者に教材作成  
を依頼するとき  
の契約内容

# 現在までにわかったこと

- サーバはOSをケチらずに買う
- 保守体制を万全に
- 仕様内容と保守契約を把握しておく
- 業者もわからないことがある
- 論文を大切に扱う
- 今までにない図書館業務の形
- DRFに頼ると答えがもらえる

# 個人的に得たもの

- 先まで見据えることが大切
- 教員とのつながり
- 他機関の人とのつながり
- あきらめずにやってみる・追求する

